

## 高等教育グランドデザインと本学の教育改革の今後

副学長（教育担当）・教務委員長 皆川 勝

「教育施策に関する基本方針 2020」（2018 年 11 月 27 日付）に続いて、学修の多様化、成績評価の基準化・厳格化、教育内容の評価点検の観点から、2019 年 11 月 18 日の大学協議会において以下の施策が基本方針として承認された。これを「教育施策基本方針 2020-2」と呼び、今後、実現のための具体的な方策を詰めてゆくこととなる。本稿では、その概要を改めて整理すると共に、高等教育グランドデザイン 2040 を見据えた本学の教育改革の推進に関する小職の考えを述べることにする。

## 「教育施策基本方針 2020-2」（2019 年 11 月 18 日開催の大学協議会にて決定）

1. 副専攻制度新設
2. 成績評価について
3. 成績の基準化
4. GPA 算出方法の変更
  - 成績上位者の CAP 上限緩和と履修奨励
  - 判定不能を不可に参入しない。
5. GPA の活用
  - 高度科目履修に GPA 下限設定
  - 成績不振者の個別学修指導
  - 大学院修士課程への推薦基準を学科内席次から GPA へ変更
6. 成績保留制度創設
7. 留年した者の後期からの卒業研究着手
8. 成績上位者の CAP 上限緩和優秀者の上限を緩和
9. 授業評価アンケートの情報開示
  - スマホにより授業の中間で実施し、履修者にフィードバック
  - 学生と教職員へ開示
  - 自由記述内容による授業改善
10. ティーチングポートフォリオの活用
  - 教員業績登録システムへの教育に関する取り組み記載の義務化
  - 授業評価アンケート結果や成績分布などの情報活用
  - 教員業績登録システムと学外公開されている Research Map の連動、あるいは一本化
  - 教員業績登録システム、あるいは Research Map による教員活動の点検と PDCA サイクルの実質化
11. クォーター制の学則明記
12. 数理・データサイエンス教育の検討（12 月 16 日開催の大学協議会で基本方針決定）

以 上

高等教育のグランドデザイン 2040 から著者が抽出した、すべての大学に求められている教育方針と、本学が実施している、あるいは実施することが決定している教育施策の主なものを図-1 に示す。本学の本格的な教育改革は 2016 年度に始まったと言える。それは、文部科学省による 2016 年度大学教育再生加速プログラム（AP）の高大接続改革推進事業 テーマ V「卒業時における質保証の取組の強化」に採択されたことを契機としている。その後、2019 年度までのプロジェクトとしてプレ・ディプロマサプリメントの発行を含む E ポートフォリオである TCU-FORCE（TCU FOR Career Enrollment）システムの開発を実施してきた。このプロジェクトは現在、他大学や文部科学省などを含む社会から高い評価を受けている。しかし、一方、本学の教育改革の方向性が明確でないとの指摘を本プロジェクトの中間評価では受けた。そのため、教育開発機構がけん引役となり、2018 年度と 2019 年度の秋に、二つの教育改革基本方針 2020 が決定され、2020 年度から実施する短期的な教育改革の主な内容が固まった。グランドデザイン 2040 で示されている方針とおおむね一致した教育施策が展開されつつあることが分かる。

すでに、実施されている事項もあるが、原則、ここに示した施策のすべてが 2020 年度より実践されることになる。

学習者中心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生教職員協働による教育改革</li> <li>・全科目群でアクティブラーニング</li> </ul>
学修成果の保証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完全クォーター制</li> <li>・履修上限厳格化など</li> </ul>
普遍的なコンピテンシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻副専攻制度</li> <li>・コンピテンシーを向上させるカリキュラム</li> </ul>
変革を起こすコンピテンシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理データサイエンスリテラシー教育構築</li> </ul>
学修成果を実感できる教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Eポートフォリオの開発</li> <li>・ディプロマサプリメントの発行</li> </ul>
生涯学習への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会基盤マネジメント大学院プログラム</li> <li>・原子力人材育成共同大学院</li> </ul>
学内外の資源の共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の国公立大学との連携教育ネットワーク</li> <li>・大規模な産学共同研究 ・国内外インターンシップ</li> </ul>
グローバル教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20%の学生が豪州で4か月の学習</li> <li>・英語のみで修了できるコース</li> <li>・外国人専門教員による教育研究</li> </ul>
地域における高等教育・産官学連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京地域唯一の地域連携プラットフォーム</li> </ul>
大学の強みを生かした教育研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市に関する教育研究のブランディング事業</li> <li>・Urban Digital Transformationの提唱と実践</li> </ul>
教育の質を高めるガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長主導の教学ガバナンス</li> <li>・教育開発機構などによる機動的な立案実践</li> </ul>

図-1 高等教育グランドデザイン 2040 と東京都市大学の教育施策

図-2は、本学の教育目標を達成するための重点施策を整理したものである。ディプロマサブリメントによる学修成果の可視化と、教育施策基本方針による学習課程の改善と可視化を一体的に進めることで、本学の教学マネジメントを確立するものである。また、学修成果の可視化に当たっては、現状のディプロマサブリメントを改善することが不可欠である。改善の柱は、導入教育、全学必修科目群 SD-PBL 及び卒業研究である。「学びの心に灯をつける」導入教育と「持続可能な開発」すなわち SD をターゲットにした全学生対象の PBL 科目群の開発、完成教育としての卒業研究のディプロマポリシーへの紐付けと評価の基準化・可視化の3施策が相まって、学習成果から学修成果へマッピングする学習教育のマネジメントが実現する。

図-3は、2019年の秋から学長の強いリーダーシップの下で検討し、2020年度入学生から全学生必修として実施する数理データサイエンス教育の枠組みである。極めて短時間での検討にも関わらず、学内関係者の理解と努力により、国の方針として求められている、文理のボーダーを超えた数理データサイエンスに関わる学習教育の枠組みが構築された。成果はこれからであるが、やる気になればできる、というグッドプラクティスであったと、言われるものにならなければならないと考えている。

図-4に示すように、教育改革を阻害する要因は多い。ここで、特に強調したいことは、学生の満足度をどう考えるのかという点である。例えば、「CAPの厳格化は留年生を増加させる」、「データサイエンス教育の導入で学ぶべき内容が増える」、などの批判の声を聴く。しかし、学生の将来の可能性を最大限に高めることによって自分の人生で明確になった時に学生は大学での学習教育が満足できるものであったと実感されるものである。短絡的な考えに陥らないようにしなければならない。これからもこれらの改革の阻害要因を意識して、教学マネジメントを確立することが社会から大学に求められている。改革は始まったばかりである。



図-2 教育目標を達成するための重点施策

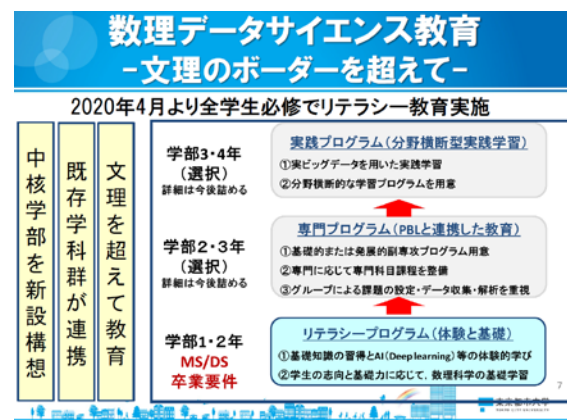


図-3 数理・データサイエンス教育方針

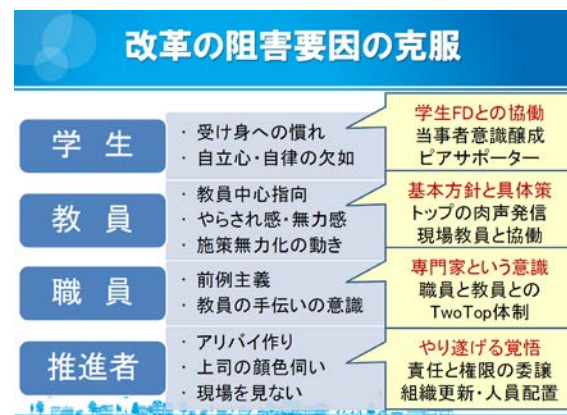


図-4 教育改革を阻害する要因